

北荷頃集落協定の挑戦

長岡

『5年後のふるさとの風景を思い浮かべたとき、美しく管理された棚田が減り、遊休化したほ場が増えている』これはいたずらに不安をあおる想像ではなく、集落の現状を直視し、分析した上での姿です。

耕地面積45haの中で、70代の農業者の耕作面積が39%、60代後半は31%、これらを合わせると65才以上の農業者が総面積の7割を担っていることになり、5年後にはこの主力の人たちが70才を越えていきます。

長岡市の北荷頃集落協定の代表に今年度就任した大崎嘉昭さんは、現状分析の結果から集落の将来に大きな危機感を抱いています。大崎代表は集落へ向けて自身で作る新聞に「悲観的な状況である。しかし、だか



荷頃こなしば（甘柿）の初出荷の前に

らこそ諦めず現状を見つめて、今何をすべきかを考え、行動することこそ肝要である。遊休農地を集積し、次につなぐ仕組みづくりが課題である」と書いています。

大崎代表は集落協定のメンバーとともに、今年度5つの事業を立ち上げました。①水稲直播実証田、②花ハスの栽培、③地域に伝わる由緒ある甘柿（荷頃こなしば）の特産化、④直売所への山菜出荷、⑤美しい棚田景観のための花の種苗配布です。この5つの事業は、それぞれ目標を達成し、次年度へつながる取組となりました。まさに北荷頃の財産となるべき種子が蒔かれたのです。今後、集落全体が一体となり、成功を積み上げて成長していくことを期待し、支援していきます。



花ハスの初収穫

集落の収益確保に6次化・複合化

魚沼

（農）一日市ひかり農産は、魚沼市一日市（ひといち）集落にある集落ぐるみ型法人です。平成16年のほ場整備を契機に生産組織を設立し、平成19年に法人化しました。

法人の運営は定年退職後の人たちを中心に、営業や経理など前職の経験を活かして行われています。

この法人では、所得確保のため水稲を主体とした経営の多角化を図っています。

経営の主体である米は、J A北魚沼のJ G A P部会の団体認証を取得する一方で、特別栽培米の独自ブランド「一日市米」として、商談会などで販路を拡大しています。



面積拡大中の花ハス

また、園芸部門では、魚沼市ブランド推奨品目である「深雪なす」と「花ハス」を栽培し、冬季間は「ふきのとう」を出荷しています。

水田フル活用では、稲発酵粗飼料用稲（WC S）とそばの二毛作を行い、生産したそばは魚沼そば研究会で製造する乾麺「魚沼そば」として販売されています。

このような取組が評価されて、平成27年度農業農村整備優良地区コンクールの農業生産基盤整備部門で農林水産大臣賞を受賞しました。

普及指導センターでは、これまで独自ブランド米の立ち上げや、園芸品目の導入を支援してきました。今後も栽培技術・経営の両面で支援を続けていきます。



大阪での商談会